2019年
7月 1日
No. 115
隔月1回発行

特定非営利活動法人
レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク会報

ひきこもり

イラスト　高津

Ｉｎｄｅｘ

2ページ　サテライト・カフェ in 小樽で当 NPO 理事が話題提供
情報番組に居場所「よりどころ」参加者がVTR出演
札幌市社会福祉協議会の社会福祉功労者として表彰される
3ページ　ひきこもりサテライト・カフェが江別市、苫小牧市で開催
第 10 回通常総会を開催
4～5ページ
池上正樹　氏、ひきこもり 8050 問題と命の危機予防を考える
6ページ　北海道新聞連載～ひきこもる中高年と支援の輪～
小樽市議会で市長がひきこもり対策について答弁
7ページ　NPO 創設 20 周年～役員が語る①　監事・鈴木祐子　氏
8ページ　こちら事務局／編集後記

会報は札幌市さぽーとほっと基金助成事業・ひまわりピア・サポート基金により作成されています

サテライト・カフェ in 小樽で当ＮＰＯの武田理事が話題提供

５月15日水曜日に開催された「ひきこもりサテライト・カフェ in 小樽」では当ＮＰＯの武田俊基理事が大学卒業後の無業状態から現在に至るまでの足跡を語った。当初は「時間だけが過ぎていくことへの不安感」「履歴の空白による行き詰まり感」を抱き悩みの渦中にあったが、親からの誘いかけをきっかけに札幌のひきこもり家族会へ参加し、人との触れ合いから自信を取り戻し、現在はピアスタッフとして札幌や旭川へ出向き当事者会運営に携わっている。

当ＮＰＯ法人の理事に就任して10年。武田理事は「団体活動を通していろんな人たちとのつながりが持て孤立感は薄らいだ」と評価し、北海道内各所でイベントを開催した際「忙しさの中に旅ができる楽しさもあった」と振り返り、不安を抱えながらも楽しみを持ちながら自分が今できることをこなしている現状を参加者に伝えた。社会的な物差しだけで当事者を評価しないフラットな関係性を常に大事にする人柄が伺える。

「ひきこもりサテライト・カフェ in 小樽」では毎回ピアな人たちに話題提供をしてもらっているが次回はＬＧＢＴ（性的少数者の総称のひとつ）のひきこもり当事者を招き話題提供を行う。（開催日時などの詳細は８ページを参照）

情報番組に居場所「よりどころ」参加者がＶＴＲ出演

札幌市の委託事業「集団型支援拠点設置運営業務」居場所「よりどころ」の当事者会、親の会が５月、６月にそれぞれ２回開催された。

６月３日月曜日の当事者会では「ゲーム」「雑談」「相談」に加えて「テーマトーク」のテーブルを設けテレビ番組のような柔らかい話題から８０５０問題など幅広い話題を参加者とともに語りあった。

昨年から「よりどころ」に継続参加している29歳の当事者Ａさんは少しずつ言葉数も増え、札幌市ひきこもり地域支援センターの協力のもと新聞配達のアルバイトをはじめた。

７月10日水曜日、ＳＴＶの「どさんこワイド１７９」では、ひきこもりを取りあげた特集番組を放送した（写真-1）。番組では。Ａさんが16年間のひきこもり経験を活かしたいと自らの意思で実名と顔を隠さずに出演した。今後Ａさんは「ひきこもりサテライト・カフェ in 江別」でピアスタッフとしてデビューする。

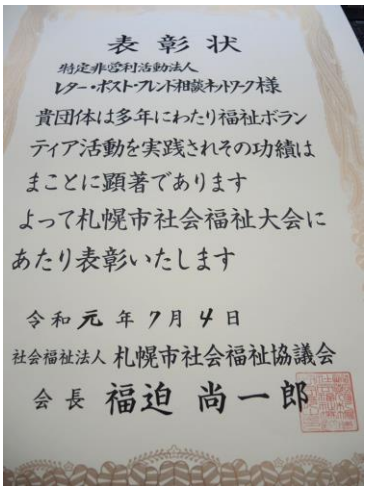
（写真-1）

札幌市社会福祉協議会の社会福祉功労者として表彰される

７月４日木曜日、当ＮＰＯは20年に及ぶひきこもり支援活動の功績を認められ、第42回札幌市社会福祉大会において社会福祉功労者（福祉ボランティア部門）として表彰され、田中敦理事長が社会福祉法人札幌市社会福祉協議会の福迫 尚一郎会長より表彰状を授与されました（写真-2）。

当ＮＰＯと札幌市社会福祉協議会との関係は長く、当事者会ＳＡＮＧＯの会場として利用を開始した２００７年に遡ります。その後、参加する当事者が札幌市ボランティア活動センターからの依頼で資料封入などの軽作業を担い、当ＮＰＯの理事が札幌市ボランティア活動センター運営委員会に出席するなど協力体制を維持してきました。

当ＮＰＯは今後も関係機関と連携し札幌市をはじめ、北海道におけるひきこもり支援の充実のため尽力していきます。


表彰状

特定非営利活動法人
レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク様

貴団体は多年にわたり福祉ボランティア活動を実践されその功績はまことに顕著であります

よって札幌市社会福祉大会にあたり表彰いたします

令和元年７月４日

社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会
会長 福迫 尚一郎

（写真-2）当 NPO に授与された表彰状

Ｌ・Ｐ・Ｆ活動報告

ひきこもりサテライト・カフェが江別市、苫小牧市で開催

ひきこもりの当事者とその家族を地域で支える事業「ひきこもりサテライト・カフェ in 江別①」が7月29日（月）から計5回にわたり江別市総合社会福祉センターで開催されます。会場にはソフトドリンクとお菓子が用意されひきこもりを経験したスタッフが話題提供を行った後、グループに分かれて対話をします。グループに入りにくい参加者のためには一人用席も用意します。

同事業は江別市社会福祉協議会が共催し、江別市のほか全8団体機関が後援団体となり円滑な開催へ向けて協力していただきます。

また6月26日水曜日、「ひきこもりサテライト・カフェ in 苫小牧」継続事業に伴う苫小牧市と北海道苫小牧保健所との3者会議を行いました。会議で第一候補となった会場は緑が豊かな憩いのある居場所（写真-1）。7月下旬に協力団体機関との全体会議を経て8月から開始予定。先行開催した小樽市と並び地方圏における地域拠点型アウトリーチ事業として実施されます。

（写真-1）

ひきこもりサテライト・カフェ in 江別
今後の開催スケジュール
②9 月 30 日（月）③10 月 18 日（金）
④11 月 21 日（木）⑤12 月 12 日（木）
日時：午後 2 時～4 時（10 月 18 日のみ午後 6 時～8 時）時間内出入り自由

会場：江別市総合社会福祉センター
　　江別市錦町 14-87
参加対象：ひきこもり当事者及び家族等
問い合わせ先：社会福祉法人江別市社会福祉協議会（くらしサポートセンターえべつ）TEL011-375-8987

北海道新聞　2019年（令和元年）7月6日（土曜日）

引きこもり当事者ら支援
「カフェ」29日に初回

【江別】社会とのかかわり方などで悩み苦しんでいるとされる「引きこもり」の当事者とその家族を支える拠点にしようと、江別初の「ひきこもり サテライト・カフェ」が29日から月1回のペースで市総合社会福祉センター（錦町14）に開設される。当事者らが気兼ねなく集う「居場所」となることを目指す。情報交換や各種公的機関への相談もできるようにする。

札幌などで引きこもり当事者と家族に向けた支援活動を行っている特定非営利活動法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク（札幌）が運営し、江別市社会福祉協議会が協力する。

初回の29日は午後2時～4時に開かれる。参加無料。事前申し込み不要で直接会場に行けばよい。ソフトドリンクとお菓子が用意される。引きこもりを経験するなどしたネットワークのスタッフが来場者に話しかけたり、何人かごとに分かれてトークする。一人でのんびり過ごすこともできる。

カフェのポスターを手に来所を呼び掛ける桜井拡平さん

（写真-2）江別市のサテライト・カフェ開催を伝える 7 月 6 日付北海道新聞

第10回通常総会を開催～当NPOが創設20年を迎える

5月25日土曜日、午後6時から8時まで当NPO第10回通常総会を開催。第1号議案から第7号議案まで審議し全会一致で可決されました。当NPOは9月1日付をもって創設満20年を迎えるため、既存事業の手紙を活用したピア・アウトリーチ、SANGOの会の活動、広報出版に関わる活動全般を「札幌圏ひきこもりピア・アウトリーチ活動促進事業」として包括実施するとともに、札幌市の委託事業、居場所「よりどころ」運営を昨年から引き続き実施します。

グラスの中にある宇宙

過去と未来をつなぐ竹はどこまでもしなやかに真っすぐにのびていく

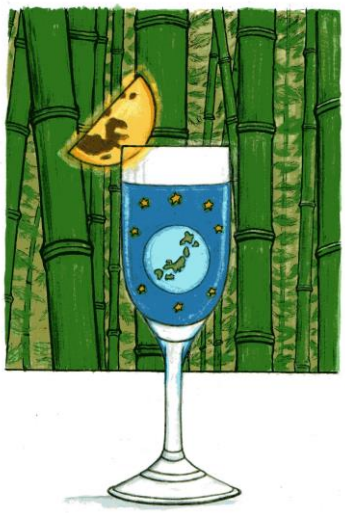


イラスト
　小松英行

ＫＨＪ北海道はまなす　ひきこもり学習会～採録（前編）
池上正樹 氏、ひきこもり 8050 問題と命の危機予防を考える

6 月 9 日（日）KHJ 北海道はまなす主催のひきこもり学習会が開催された。同学習会は 10 月の KHJ 全国大会へ向けたプレ企画として今春企画。定員 60 名を超える 110 名が参加した。第一部をジャーナリストの池上 正樹 氏（写真-1）が「ひきこもり 8050 問題と命の危機予防を考える」をテーマに講演、また小休憩を挟み、第二部はパネルディスカッションとして 40 代 50 代の当事者 3 名が自身の体験をもとに当事者が求める支援のありようを語った。

ひきこもり８０５０問題と命の危機予防を考える ～ 池上　正樹 氏（ジャーナリスト、東京都町田市専門部委員、ＮＰＯ法人 KHJ 全国ひきこもり家族会連合会理事）

（写真-1）
講師の池上 正樹 氏

◇ひきこもりは犯罪予備軍ではない

最初に川崎市の襲撃事件で被害に合われたご家族、傷つけられた全てのみなさまにお見舞い申し上げます。

ひきこもり家族会の広報担当理事のためこの 1 週間はメディア対応に追われる日々で寝る時間もない状態です。ひきこもり家族会は同じような経験をされている仲間がいることで悩んでいるのは自分一人ではないということを感じることがとても大切かと思っています。それくらい（家族や当事者は）孤立して疲弊して大変な状況にあるわけです。

事件後「不安を感じてもう限界だ」「このような状況が怖い」「犯人と自分が同一視されるため外出ができなくなる」「偏見や差別が助長されるのではないか」と当事者本人からもメールが来ます。「外出できないならどこへ行けばよいのか」といった居場所の情報を求める声もとても多いです。家族からは「相談はしてきたけれど行政は何もしてくれなかった」といった声や「家から連れ出してほしい」といった偏った支援に頼る意見もありました。

テレビタレントが自殺した当事者に対して「死ぬなら一人で死ねばよい」と発言したほか「不良品」「犯罪予備軍」といった表現で括る発言もありました。このような心ない一言で当事者も傷つき家族も不安に煽られています。このように社会（メディア）が加害者になることをとても危惧します。

これは何度でも訴えていかなくてはいけないことですが、ひきこもっている状態の人たちが「ひきこもり」が要因で事件を起こすのではありません。川崎の事件でいえば私の推測ですが、当事者本人の命や大事にしてきたプライベートゾーンに外部者が侵入する危機的な状況になっていたと思います。何故なら当事者にとって家の中は安心できる居場所です。そこにいる限り自分の命の尊厳は守られる。そこへ自分の知らない外部からの人間や家族が侵入することで自分の居場所がなくなる。自分の居場所が失わることが突き動かされる要因になるのです。

川崎市の精神保健福祉センターの記者会見では、（事件を起こした）当事者は「食事洗濯は自分でやっているのにはひきこもりとは何だ」と言っていました。他の当事者の多くも「自分はひきこもりではない」「病気ではない」という方が多いです。こういう人たちに「ひきこもり」や「障害」というレッテルを貼ることに疑問に感じます。

◇暴力的支援団体に対して

インターネットでは「ひきこもりは 100%解決する」といったキャチコピーでわらをもつかむ思いで相談に来る家族を食い物にするような支援業者をよく見かけます。一人の成功事例は他の当事者たちにとって絶望のモデルになります。何故なら生き方はみなさん違います。では専門家はいるのかという話になりますが、私も含めて初めて会う当事者の前では誰もが門外漢、素人なのです。それほどひきこもりの状態は千差万別みなさん違うということを理解する必要があります。

昨日このような暴力的支援団体に連れ出され施設に入れられた被害者やその家族が集り、一部のメディア担当者と情報交換会を行いました。そこで少しずつガイドラインを策定し、ＫＨＪ家族会でも協議をすすめ当事者にも人権があることを理解してもらうため権利宣言をしていきたいと思っています。

◇８０５０問題の現状と課題

8050 問題の「８０５０」とは８０代の親が５０代の子どもの生活を支えている状態を指します。一見立派な家に住んでいるようにみえても親の年金に頼り生活しているため経済的には行き詰っている家庭が多いです。このような状況で家族全体が孤立しているわけです。そのような家庭が地域のなかで発見されたとしても従来の縦割り行政では一つの部署で解決ができません。川崎市の事件では、ひきこもり地域支援センターを受託している精神保健福祉センターに親族が 14 回にわたり相談しています。本来ならひきこもり支援の専門部署であるはずなのに結果的に助けることができなかったわけです。ここを検証する必要があります。このようなひきこもりに特化した専門窓口が充実していない背景には、人手がない、スキルがない、資金がないことがまず挙げられます。全てではないですが「支援窓口」という形だけが備わっている機関が多いように感じます。

当事者たちは外部にも家族にも話を聞いてもらえない苦しみの渦中にいます。社会にも家庭にも居場所がなく「働け」という圧力をかけられるので他人が怖くなる。他者の視線が気になり昼間外出ができなくなる。この繰り返しの中で生きる希望が失われる悪循環に陥っています。従来の支援では 40 歳以上の人が相談しても様々な部署にたらい回しされてどこにも受け皿がなく、ひきこもりという属性から当事者は「自分は障害者ではない」と考えるため障害認定も受けられない。ひきこもりに対応する制度や法律がないという現実もあります。「早く死んでくれと社会から言われているような気がする」このような当事者の言葉に集約される状況です。

厚生労働大臣は「ひきこもりは新しい社会問題だ」と見解を示すなか内閣府は今年３月に初めて 40 歳を超える中高年層のひきこもりに関する調査結果を公表しました。40 代からひきこもりになった人が 57%で、原因は職場の人間関係など社会側の問題がきっかけになっている例が多いです。高度経済成長の設計のまま雇用の仕組みが未だに変わっていないため何歳になっても再スタートできる制度になっていないことが原因かと思います。

◇生きているだけで社会参加

ひきこもるという行為自体が命の尊厳を守るために社会から撤退している状況です。絶望はあるけれども生きていれば希望が叶うかもしれない。自分の価値観を守るために生き続ける選択肢として「ひきこもる」のだと思います。白梅学園大学の長谷川俊雄さんは社会的自立の定義について「生きているだけで社会参加している」と述べています。生きることが社会参加。これはとても大事な考え方だと思います。しかし家族は世間体を気にして他人と比較して子どもを責めてしまい、子どもはそのような社会の価値観に追い詰められるわけです。このような無意識のバイアスにとらわれている当事者を周囲が開放してあげないと孤立が生まれると思います。就労しても生きにくさは続きます。就労は決してゴールではありません。親も当事者も就労至上主義の呪縛から解き放たれることが大事です。そのために家族会や当事者会に参加することが大切になります。家族会や当事者会はつながりやすく持続しやすい利点があります。月１回の定例会に参加するだけで当事者に変化がみられる事例はたくさんあります。

様々な事件・事故・災害・親の病気や介護・離職などいろんな理由で誰もがひきこもりになりえます。だから他人事ではなく自分のこととして向き合うことが大事です。

（後編では第２部のパネルディスカッションで語る３名の中高年当事者の発言を掲載します）

KHJ 全国大会 in 北海道「ひきこもり者が生きる力を育む地域共生社会に向けて」

とき：２０１９年１０月１２日（土）午後１２時～17 時　１３日（日）午前９時～12 時
会場：北海道立道民活動センター「かでる2.7」４階大会議室
住所：札幌市中央区北２条西７丁目 道民活動センタービル
申し込み：９月 15 日までに KHJ 全国大会 in 北海道実行委員会まで FAX、メール、郵送で申し込む
資料代：一人参加 2,000 円、家族参加 2,500 円、学生参加 500 円、当事者参加 無料
懇親会費：5,000 円（参加希望者のみ） 資料代、懇親会費は事前の振り込みが必要
詳細は、KHJ 北海道「はまなす」HP　http://hokkaido-hamanasu.com/　をご覧ください。

北海道新聞連載～ひきこもる中高年と支援の輪～
当事者の声を紹介　官民一体で居場所運営

6月28日金曜日から3日間にわたり北海道新聞朝刊くらし報道部欄に連載された「8050問題を考える～ひきこもる中高年と支援の輪」において当NPOに関わる当事者の声がコメントして掲載されました。6月9日開催のひきこもり学習会に登壇した3名の40代～50代の当事者の声（詳細は次号に掲載）のほか、当NPOでピアスタッフを務めている大橋伸和さんがひきこもり経験を生かして当事者を支えるまでの経緯が掲載されました。

『言葉を理解する能力は正常だが学校などの社会的な状況では話せない「場面緘黙」で悩む大橋さんは改善していくために通院先の病院が運営する作業所に通いスタッフや仲間に支えられ少しずつ他人と話せるようになった。25歳で大学へ入学し卒業後は障害者施設で支援員として働きながら居場所「よりどころ」でスタッフとして活動している』（以上新聞記事より一部転載）

6月30日日曜日、連載の最終日。先行事例としてひきこもり地域支援センターを受託している岡山県総社市社会福祉協議会の実践を取り上げました。総社市では行政とセンターを受託する社協が協力して常設型の居場所を運営。居場所には厚生労働省が進めるひきこもりサポーター養成研修・派遣事業を活用して登録者が対応。地域でひきこもる人たちの困りごとを共有し、地域づくりとしてひきこもりが取り組まれています。

札幌市は昨年6月から公設民営の居場所「よりどころ」を設置し、ひきこもり当事者経験者でつくる当NPOが受託、ひきこもり地域支援センターと協同実践をしています。札幌市5か年計画のなかで「ひきこもり対策推進事業」も検討しており、今後の動向が待たれます。

北海道新聞
ひきこもる中高年と支援の輪 8050問題を考える
㊦ 折れた心
いじめ、退職…孤立深め
全国で61万人
上司から暴言
中高年のひきこもり
ひきこもりの期間
きっかけ

（写真-1）2019年6月28日付北海道新聞

小樽市議会で市長がひきこもり対策について答弁

6月18日火曜日に開催された小樽市議会において秋元智憲議員が代表質問のなかで40歳以上の中高年ひきこもりについて質問がなされ、迫俊哉小樽市長が回答しました。

秋元議員は、2014年に小樽市におけるひきこもりの実態把握の調査を行った際、ひきこもりではないかと推測される人数が54人で、そのうち40歳を超えると思われる人数が24人あったことを指摘し、民生委員児童委員による簡易調査であるが若年者より中高年が多いことから、より詳細な調査分析を行い、ひきこもりの人たちが将来に希望が持てるような具体的な政策を小樽市長に求めました。

また当NPOが実施する「ひきこもりサテライト・カフェ in 小樽」の活動を紹介し、今後必要となる居場所づくり、ピア・サポートの導入に向けて専門家を交えた議論を要望しました。

迫小樽市長は「ひきこもり世帯は地域との関係が希薄で認知されにくく実態把握が困難なことから調査の実施は難しい。今後は関係各課で受けている相談事例を把握したうえでどのような取り組みができるか検討する」「ひきこもり対策には多様な分野の専門性が必要であり、今後専門知識を持つ方々と議論をもちながら支援事業の実施に努めたい」と答弁しました。

当NPO創設20周年～役員が語る①　監事　鈴木　祐子 氏
団体活動が当事者にとって新たな社会への一歩に

NPO 法人レター・ポスト・フレンド相談ネットワークの 20 周年に心から祝意と謝辞を申し上げます。

当時は「親の会」だけで、大方が団塊世代の方々だったので、このネーミングがとても若々しく、期待と希望を持ちました。特に、当事者が自ら駆け込めるところは、それまでは皆無だったことから大きな希望でした。

20 年という年月、活動を切らさずに続けていくことは並大抵なことではありません。それが、社会から団体として認知されて、活動が順調に進んでいくようになるまでには、幾多の困難、障害があったことでしょう。

広域な北海道内において先駆的に「サテライト・カフェ」を開始し、過疎の地域にも隔てなく情熱を注ぎました。その成果が、北海道内には数少ない「当事者の会」を生み出しました。

当事者たちが秘めた能力を発揮した「北海道ひきこもり芸術展」（2015 年開催）は、たくさんの作品発表でわかるように、当事者との地道な関わりの中で得意な面を発掘し、肯定し、世の光を当てながら、それぞれが徐々に自分の力をつけてきた２０年といえます。

誰ひとり理解せず、手をつけなかった未知の分野（ひきこもり）に着手するには、不登校、ひきこもりを経験した者でなければわからない強い信念があると思います。その信念、志に親世代の私たちも多くを教えられました。

鈴木祐子（プロフィール）1997 年小学校 6 年だった長男の不登校をきっかけにして家族会を立ち上げ、2004 年から「小樽不登校・ひきこもり家族交流会」代表を務めた。現在は世話人として茶話会や当事者に絵葉書を送る活動などを通して当事者や親のサポートに取り組んでいる。2013 年 11 月当 NPO 法人の監事に就任。

鈴木　祐子　氏

北海道は本州、中央よりあらゆることで１０年遅れといわれています。レター・ポスト・フレンド相談ネットワークは、東京や全国で試行して良かったものをいち早く道内に取り入れてきました。「道産こもり 179 大学」「ひきこもりフューチャーセッション」「オープンダイアローグ」など、とくに「手紙を活用したピア・アウトリーチ」は、まだその言葉さえ知られていない状況で、積極的に啓発につとめてきました。

札幌には、親の会や様々な団体が数多くありますが、社会や人々に求められ、認められ、継続していくなかで、良いものは自然淘汰されていくと信じていました。

札幌市の委託事業として開催している居場所「よりどころ」は、親と当事者の二本柱で本格的なひきこもり支援策となりつつあります。

その事業をレター・ポスト・フレンド相談ネットワークが受託し、今まで実践してきた全てを総動員した新たな活動の展開になっています。それはまた、ひきこもり当事者の新たな社会への一歩ともいえるでしょう。貴会のこれからに大きく期待しています。

Photo by kaise

私たちの仲間になりませんか　会員募集をしています

正会員	賛助会員	寄付金
入会金　1,000 円	入会金　1,000 円	一口　1,000 円～
年会費　3,000 円	年会費　2,000 円	

入会金、会費納入は、下記郵便振替口座へのお振り込みでお願いします。

●口座記号番号　02700-4-66261

●加入者名　　レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク

こ ち ら 事 務 局！　　*今後の動き(2019 年 7 月～)*

◆「SANGO の会」例会のご案内

２０１９年７月は下記日程にて行います。初めての方も参加できます。概ね 35 歳前後のひきこもり当事者や経験者で、人との関係や会話に慣れたいと思っている方、またいろいろな情報を得たいと考えている方は、いらしてください。詳細は事務局までお問い合わせください。初めて参加される方で、少人数で会うことを希望される方は、事前に事務局までメール、電話でお問い合わせのうえ初心者の例会にお越しください。

《初心者の例会》

とき：７月３１日（水）午後５時３０分から７時３０分まで

会場：札幌市社会福祉総合センター４階 札幌市ボランティア活動センター ボランティア活動室

（札幌市中央区大通西 19 丁目 1-1　地下鉄東西線西 18 丁目駅下車徒歩３分）

随時、当 NPO のホームページで公開していきますのでご確認ください。http://letter-post.com/

◆居場所「よりどころ」開催のご案内（2019 年７月～8月）

（当事者会）７月 15 日（月・祝）8月5日（月）※　６階 和室研修室「樹」

（親の会）　７月 22 日（月）※　8月１２日（月/祝）10 階 1010 会議室

開催会場：　北海道立道民活動センター「かでる2.7」（札幌市中央区北２条西７丁目 道民活動センタービル）JR 札幌駅南口から徒歩 13 分

開催時間：いずれも午後１時 30 分～4 時まで

利用対象：ひきこもり当事者及びその家族

参加費：無料　事前申込不要　直接会場にいらしてください。※印の日はひきこもり地域支援センター相談員の参加予定日です。

◆ひきこもり支援セミナー「ひきこもりって何だろう」第１回開催のご案内

北海道ソーシャルワーカー協会は８月と 10 月の２回に分けて「2019 年度ひきこもり支援セミナー：ひきこもりって何だろう～当事者・家族・支援者をつなぐ架け橋～」を開催します。第１回目は当 NPO 田中理事長の基調講演、ひきこもり当事者、家族やひきこもり経験者から専門職（社会福祉士）になった支援者がそれぞれ登壇します。

と　き：８月 24 日（土）午前 11 時 00 分から午後２時３０分まで

会　場：道民活動センターかでる２・７／520 研修室

参加対象：ひきこもり当事者及びその家族、支援者、一般市民

参加費：無料

※事前申し込みが必要です。詳細は主催の NPO 法人北海道ソーシャルワーカー協会のホームページをご覧ください。https://npohasw.wixsite.com/hasw

◆「ひきこもりサテライト・カフェ in 小樽」開催のご案内

今後の開催スケジュール（7月以降）７月１７日（水）８月２１日（水）９月１８日（水）

１０月１６日（水）１１月２０日（水）１２月１８日（水）2020 年１月１５日（水）

２月１９日（水）３月１８日（水）

と　き：午後２時 00 分から午後４時 00 分まで　出入り自由

会　場：小樽市総合福祉センター４階和室（小樽市花園２丁目 12 番１号）

参加対象：ひきこもり当事者及びその家族など

参加費：無料　事前申し込み不要　直接会場へいらしてください

後　援：小樽市・北海道新聞社

☆ 編 集 後 記 ☆

KHJ 全国大会が北海道札幌にて初めて開催されます。当 NPO も共催団体として加わり実行委員メンバーとして大会運営の一翼を担い準備をすすめています。多くの皆さまのご参加をお待ちしています。

（発行責任者　理事長　田中　敦）

無 断 複 製 はおやめください